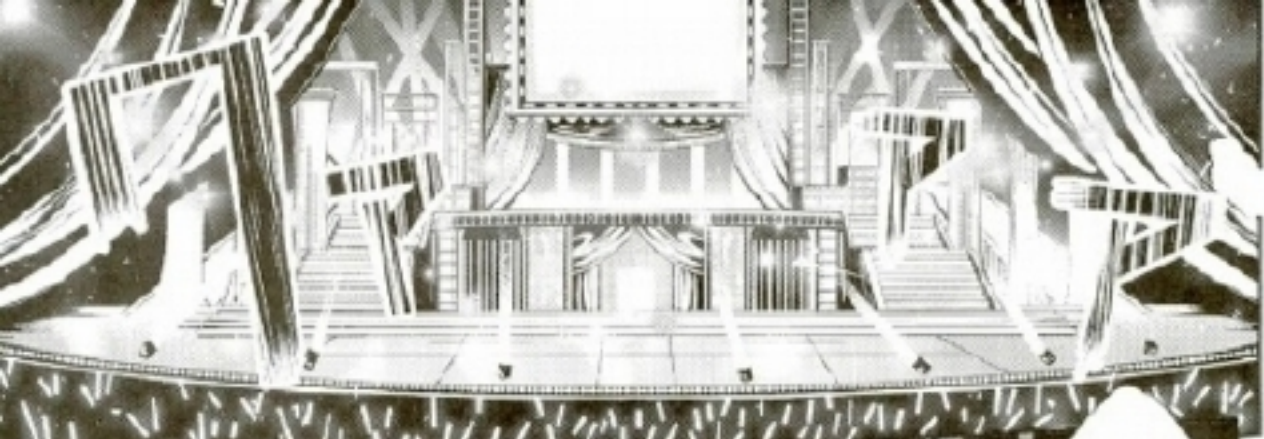


THE IDOLM@STER CINDERELLA GIRLS FAN BOOK 04

フェアリー
ベリタス
の花
C.01



18
ADULT ONLY



よく
見ておけよ
見習い

あれが俺達が
プロデュースしている
アイドルだ

—はいっ!!







——卯月ちゃん

未央ちゃん

プロデュースさんっ!!

はははっ
なんだか
こそばゆいね

まだ僕は
見習いだし

それよりも
今日のライブ

とつても
よかったよ!!

あの会場が
一体になる
感じ

これも君達の
魅力のなせる
ことだよ!!

あはは
何だか
照れちゃい
ます

しぶりんなら
先に控室に
戻らつて言っ
てましたよ?

……って
あれ?

凛ちゃん
……?

えへへ
ありがとう
ございますっ!!



先輩がこの後の
打ち合わせで
呼んでるから

二人は先に
向かってて
くれる？

僕は票ちゃんを
迎えに行くから

はいっ
わかりました!!

この時の事を
僕は後悔している

ライブの高揚感で
止まることの
なかった僕の足

扉をノックの
一つでも
できていれば

僕は知ることが
なかったのだ



おはな

あーい

凜……ちゃん……?

ねえ

……扉
閉めて欲しいん
だけれど……

それとも
私のコレ——

他の人に
見せたいの？

カタカタ

……凜ちゃん
君は一体何で
ここでこんな
事……

—別に

ライブで
溜まってた熱を
発散させてただけ

—ねえ
見習いクン

あ
今の反応で
丸分り

んんんんん
!!
っ

じゃあ
ラッキーだね

これからの事
初体験じゃん

アンタって
童貞—?

ちよっ!?

—動かないで

あ……でた

ふーん
これが見習いクンの
アレかあ

僕はプロデューサーとして彼女を止めるべきなのに

彼女はアイドルで

思ってたより
小さいかな

うああ……

思考は止まり身体が思うように動かない

ん……おつきく
なってきた♥

んっ……
ふうっ

んぐっ……

ん……っ!!

見習いクンの
コレ——
凄い匂い

ちやんと
洗ってる
？

あっ……
くはっ……!!

だ……駄目っ
……たっ——!!

返事する
余裕もないんだ？

——いいよ
もっと気持ち
よくなっても

あっ
はあっ……!!

——んんん

凍っ……
ちゃん……っ!!

その方が私も
興奮するしっ……!!

っ!!

で……
射精る——っ!!



ふうん もう
射精しちやっただ

思ってたより
早いんだね



そりゃった

昨日は確か



トワフアイドルの
宗ちゃん

あんな事を



ふい

僕の顔を

あんな風に深く
啜らされて……



はあ

……って
何してんだ
俺はあつ?!?

凛ちゃんも
僕にも僕の
担当アイドル
なんだぞ?!?

はあ



はあ

今日も
仕事あるん
だった!!

シャワーっ
それに
着替え……

アイロンかけ
忘れた……って
時間があつ!!

わあ
あ
あ





あつ!!
プロデューサー
さんっ!!



おとと来たか
ギリギリだぞ?

は...はい
すいません
でした

まあ
間に合ったから
問題ないさ



お:おはよう
ございます

昨日のライブで
興奮しすぎたか?

ええ
ま...まあ





—っ!!

おっ!!

凛……ちゃん

あ……
あつと

お……
おはよ……!

何それ?
髪の毛に
寝癖ついてる

あと
スーツもシャツも
よれよれ状態



その姿を見せて
恥を掻くのは
会社とアイドル達

Pになるのなら
もつと自覚を
持ちなよ

うわっ!?
しぶりん!
キビシ〜〜ツ!!

あっはっは
でも確かに
渋谷の言う通り
だからな

ほら
寝癖直す時間
くらいあるから

さっさと
直してこい

は…はい
わかりましたっ!!

よーし
他の皆は
駐車場に
向かうぞ〜

は—いっ!!

昨日の事
思い出して

オナニーでもして
遅刻した—?

ズツ

……はあ

朝からやらかすとかなんてブルーな気分なんだ……

凶星

凛
ちゃんっ!!



んんん

——昨日の事

誰かに言ったら
許さないから

ん…

んなっ!?

い…

言えるわけ
ないだろう
が~~~~っ!!

——そうだ
忘れてしまえば
いいんだ

昨日のことは
きつと彼女も
だったんだ——
っ!!

— そう思っていたのに

凜ちゃん……っ

こんな場所
誰かに見られたら
っ!!

ふ~~~~~ん
ココこんなに
汁たらしでおいで

まだそんな事
言えるんだ
?

いつもの事でしょ？
今日のライブも
盛況だったんだし

私の熱冷ますの
付き合っ
てく
れてもさ

そう

彼女との
こうした関係は
これで二度目では
ない

彼女は
ライブの仕事が
終わる度

僕を人目の
付かない場所
に連れ込み

彼女の強引さに
僕はただ

為す術もなく
付き合わされる

こうして
僕のモノを舐めながら
自慰を繰り返す

——凍ちゃん
どうして
こんな事……

—また
その話？

正直
聞き飽きたん
だけど……

——っ!!
ここで
引いてちゃ
駄目だっ……!!

いつまでも
こんな事を続けさせる
ワケにいかないんだっ!!

僕は「見習い」でも
彼女のプロ
デューサーなん
だからっ!!

僕には
どうしても
君が喜んで
こういう事を
するとは

どうしても
思えないっ!!

何か
あるのか——？

不安？ 悩み？
確かに僕なんか
まだまだただけど

できる限り
力になるから——…

皆の所に
行こう？

皆も……
Pだつて
君の事を
待ってる
から——

もしもし
凜か——？

P.P.P

うん
そう

私ちよつと
お腹が痛く
なつちやつた
から――

うん…大丈夫
見習いクンに
送らせるよ

了解…今日は
もう休んで
明日までには
直すから――

っ!!

じゃあ
また明日

ねえ

見習いクン

――今から
いいで

――あ
でも流石に妊娠は
困るから

コンドームは
使つてよね

私と
Hしよっか

ホラ
持つてる
から

——今まで
紙めてあげる
だけだったのが
不満なんだよね？

嬉しいでしょ
アイドルの私ど
エッチできる
なんて

彼女は何ヲ言ッテルンダ——？

違うっ!!
そうじゃなくて

僕が
言いたい
の——っ!!

——ねえ
な~~~~んか
勘違いして
ない？

見習いクンは
私に命令できる権利
あると思ってるんだ？

——そういえば
初めて口で
してあげた時に
ハンカチに吐き出した
君の精液

Pに持って行って
相談したら
ど~~~~なるの
かな——？って

冗談だよ
ジョーダン

——まめ
私を抱きたいって
人はたくさん
いるだろうし

そつちを
探すから
帰ってもいーよ

——それだけは
駄目だ……!!!

凜ちゃん

——ない

そんな権利
これっぽっちも
ね……

……わかったよ
僕に君を
抱かせて欲しい

僕に君は
止められないの
かい——？

それが
彼女の行動を
見張る為に選んだ

僕の答え

凛ちゃん
いくよ——？

……………

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ



僕の
涼ちゃん
の中に？

は……挿入しちゃった

……どーしたの？
ぼ……っとしちゃって

脱童貞しちゃった
のが嬉しくて
放心しちゃった——？

脱童貞クン？

もつと好きに
動いちゃって
いいんだよ？

ほら
こうして
動いて欲しいん
だろっつっ！！

あぁっ
わかつたよ！！



あーっ
あーっ
あーっ

スッ
スッ
スッ

スッ
スッ
スッ

見ろ！
もう七か...

こんなに
乱れて.....

アレ？
でもこんな
泣くして

彼女ほ
痛くの
ないの？

今
私の事「処女じゃ
なかった？」って
願してる

凄
らしい
やんが

...っ!?

やっぱり



—そんな事
今はどうでも
いいでしょ？

見習いクンは
獣みたい腰を
振っていたらば
いいの——っ!!

そんなに
胸に吸いたい
子供みたいって

あーあー

あーあー



嫌キスは……

……っ!!



……だよ
別にさうでもない
僕の彼女として
わけじゃない

僕とは
彼女が身体を
求めるだけの
関係だ

凧ちゃん
いくつ……!!



じゃ
見習いクン
さきに帰るね



あつ……
待って送って
いく……!!


凛ちゃん……君は



—付いて来ないで

じゃあ
また明日

.....To be continued



2016.06.19

漆黒の
Base Jaid